

第2章 受講内容の分析

本章では、受講者が受講した教育訓練（向上訓練）の内容を分析することによって、向上訓練の受講者像を浮び上らせることを目的としている。

本章がそのために設定した分析対象事項は、調査票の設問に即していえば、問11より問15、問19及び問20である。これらの設問は、教育訓練の実施主体により規定されるものと、受講者自身の判断・意識により決定されるものとに分類できる。即ち前者は問11のコース、実施場所、実施時刻、日数・時数及び問12の情報の入手経路であり、後者は問13の受講の判断、問14の受講動機、問15の受講評価、問19の再受講の希望及び問20の再受講希望の内容である。

本章第1節では、附属資料の集計結果を基に上述の本章分担の全設問について全体的傾向を明らかにする。その全体的傾向の叙述においては、例外的事実については注記し、各設問毎の特色をまとめることにしたい。

本章第2節では、第1章の全体的傾向に基づき、特に受講動機、受講評価及び再受講希望の3者間のクロス集計の中から受講者像をより具体的にイメージしようとしている。特に訓練校の受講者については、更にコース毎の受講者像を考察している。これらのことが、公共向上訓練のコース開発、あるいは内容設定にとって、極めて重要な示唆を与えてくれると考えるからである。

第1節 全体的傾向

① コース別の傾向（問11）

これは、調査対象校の選定によって強く影響を受ける項目であるが、本調査の場合、コース別の傾向は表1の通りである。

表1 コース別人数（率）

コース \ 区分	人 数	比 率（％）
機 械 系	4 1 9	3 0.5
電 気 系	3 1 7	2 3.1
溶 接 系	1 6 1	1 1.7
建 設 系	1 5 0	1 0.9
事 務 系	2 1 6	1 5.7
指 導 管 理 系	1 1 1	8.1

機械系の受講者構成は年令別では30才以下でやや高く(37.5%)年令が高くなるに従い低くなる。学歴別では高学歴者は低く(短大卒で17.1%、大学卒で24.9%)、規模別では100名以上の規模が高く、特に300~999名規模で極めて高い(49.7%)。又、現職別では機械系(機械加工82.0%、機械組立53.9%)の他、専門技術職が高い(44.5%)。

電気系コースの受講者構成は、学歴別では高学歴者が高く(短大卒35.7%、大学卒32.0%)、現職別では電気系(79.7%)のほか、その他の職種からが極めて高い(43.9%)のが大きな特徴となっている。

溶接系コースの受講者構成は、学歴別では中卒者が最も高く(20.4%)、現職別では建設職が極めて高く(31.0%)、機械組立(18.4%)、その他(18.5%)も高い。

建設系コースの受講者構成は、学歴別では中卒者がやや高く(17.1%)、就業上の立場別では自営(36.4%)、自営手伝い(30.6%)が極めて高い。そのため規模別では、小規模が高く(5~29人=21.1%)、特に3~4人の零細規模が極めて高い。

事務系コースの受講者構成は、学歴別では短大卒が高く(27.9%)、就業上の立場別では自営手伝いが高く(24.7%)、人数は少いが不定が極めて高い(57.1%)。又、規模別では、100人以上の規模では規模の拡大に相反して次第に低くなる傾向を示している。

指導管理系コースの受講者構成は、40才以上でやや高く(40~44才=15.4%、45~49才=14.8%)、規模別では30人~999人規模が15%で一定しているが、しかし小規模では皆無に近い。又、現職別では管理職(39.6%)の他、機械組立(13.2%)、その他の職種(13.0%)がやや高い。

以上のことからコース別の特色を述べると、機械、建設、事務系コースではそのコース内容に直接関連する職業からの受講者が多いのに比し、電気、溶接、指導管理系コースでは、より幅広い職業からの受講者が多いことを挙げ得る。このことは、多様な対象者に合せたメニュー(訓練コース)が準備されていることを示すと同時に、向上訓練が従来の訓練と大きく異なる証左の一例として挙げ得るのである。

② 教育訓練の実施場所(問11ーア)

教育訓練の実施場所別の全体傾向は表2の通りである。

表2 教育訓練の実施場所

場 所	人数	比率(%)
実施者の施設内	1,184	86.2
受講者の勤務社内	49	3.6
そ の 他	49	3.6

左表の通り、大部分は教育訓練実施主体の施設内で行われている。

その中で、施設別に見ると工業試験場が「その他の施設」(7.7%)での受講の、又コース別

に見ると指導管理系が受講者の勤務会社内(13.5%)での受講比率の高いことを指摘できる。

③ コースの昼夜別 (問11-U)

教育訓練の実施時間を昼夜別にみると、表3の通りである。

表3 コースの昼夜別

昼夜別	人数	比率(%)
昼	741	53.9
夜	530	38.6
昼と夜	71	5.2

表3の通り、昼間が約5割、夜間が約4割であるが、その両方にまたがるものは5%と低い。

昼の受講者構成は施設別で、総訓・センターが極めて高く(83.6%)、規模別では300人以上が高く、特に1,000人以上が極めて高い(78.8%)。

又、現職別では機械組立(69.7%)、電気(73.4%)が極めて高い。

夜の受講者構成は、年齢別では20~24才が極めて高く(54.6%)、25~29才及び40~44才を除けば他はやや低い。学歴別では中卒者が極めて低く(20.1%)、短大卒(55.0%)、大学卒(51.5%)が高い。施設別では当然ながら専修学校が96.0%と極めて高く、工業試験場(47.8%)、県立訓練校(59.8%)も高く、これに対し、総訓・センターが5.9%と極めて低いのが顕著である。コース別では、建築(60.0%)、事務(94.9%)及び指導管理系(54.1%)と極めて高い。就業上の立場別では自営手伝い(60.0%)及びとくに定った仕事の無い(61.2%)が極めて高い。又、現職別では事務職の受講者が極めて高い(87.9%)。

昼夜間両方の受講者構成は、コース別では建設系が極めて高く(27.3%)、建設系の構成に関連して就業上の立場別では自営者(16.5%)及び現職別では建設職(20.2%)が高くなっている。

以上のことから昼夜実施別の特色を述べると、施設別の特徴が強く反映してい

ることを指摘できる。特に総訓・センターでは昼間が大部分であり、その昼間は企業規模別では300人以上の企業が高いことを考えると、公共訓練が果すべき役割との関連で、今後検討すべき課題が大きいといえよう。

④ コースの日数・時数（問11-E）

教育訓練コースの日数及び時間数は、表4の通りである。

日数別では9日以下が約7割で圧倒的に多く、時間数別では10～29時間で

表4 コースの日数比率と時間数比率

	日数比率(%)	時間数比率(%)
9以下	73.7	4.4
10～19	7.1	40.3
20～29	4.5	19.7
30～89	6.6	17.5
90以上	8.2	17.5

6割を占めている。日数と時間数とは相関するので、以下は時間数別の比率に顕れる特色を中心に指摘したい。

10～19時間の受講者構成については、学歴別では中学卒者が高く(57.9%)、施設別では総訓・センターの受講者が高く(52.6%)、コース別では溶接(59.0%)、指導管理(73.9%)

が極めて高い。就業上の立場別では自営者が高く(52.1%)、現職別では機械加工(51.7%)、建設職(57.1%)、その他の職種(52.8%)が高くなっている。

90時間以上の受講者構成については、年齢別では20～24才が極めて高く(39.0%)、学歴別では短大卒(35.7%)、大学卒(31.5%)が高い。施設別では各種・専修学校(62.9%)、工業試験場(67.5%)が共に極めて高いが、しかし日数では各種・専修学校が90日以上の62.9%に対し、工業試験場は15.8%であり、日数では両者の間に差異があるといえる。コース別では機械系(25.3%)と電気系(25.6%)がやや高い。又企業規模別では100～299人が高く(30.3%)なっており、現職別では専門技術職が極めて高い(34.8%)。

以上により、日数・時間数による教育訓練の特色を述べると、各種・専修学校及び工業試験場では比較的長期であることに、県立訓練校及び総訓・センターでは比較的短期であることに、その特色があるといえる。しかし、より詳細にみると、各種・専修学校は90日以上に、工業試験場は60～69日に、又、県立訓練校は10～29時間に、総訓・センターは10～19時間に特色がでていることがわかる。このことは、向上訓練＝短期訓練、あるいは向上訓練＝“アラカルト”でなくてはならないとする通説が今後のコース開発に当っては検討に値することを示しているといえよう。

⑤ 情報の入手経路（問 12）

受講者が受講した教育訓練施設・コースの情報を、どのような経路で入手したかの全体的傾向は、表 5 の通りである。

表 5 情報の入手経路
(MA)

入手経路	人 数	比率(%)
会社から	6 2 1	4 5.2
業界団体から	2 2 7	1 6.5
自治体公報から	2 3 1	1 6.8
マスコミから	1 1 5	8.4
友人・知人から	1 4 6	1 0.6
そ の 他	1 2 4	9.0

表 5 のように、会社・業界からが全体の 6 割以上を占めており、それが大きな情報ルートであることがわかる。

会社から情報を得た受講者構成は、年令別では、若い人ほど高く、年令が高くなるに従い低くなる傾向を示している。施設別では工業試験場が極めて高く（78.9%）、コース別では機械系（70.9%）、溶接系（59.6%）、及び指導管理系（79.3%）が極めて高くなっている。

又、企業規模別では、100人以上が60%以上と極めて高くなっており、現職別では機械加工（75.7%）、機械組立（68.4%）が極めて高くなっている。

業界全体から情報を得た受講者構成は、年令別では若い人は低く、年令が高くなるに従い高くなる傾向を示している。コース別では、建設系が極めて高く（38.7%）、就業上の立場別では自営者（55.4%）、自営手伝（43.5%）が極めて高く、その為企業規模別では1～4人が極めて高くなっている（46.8～39.9%）。又、現職別では建設職が極めて高い（41.7%）。

自治体公報紙から情報を得た受講者構成は、年令別では35～49才が23・4%台とやや高く、施設別では県立訓練校が高い（26.0%）。コース別では事務系、建設系が25%台で高い。企業規模別では2～29人が20%を越えてやや高く、現職別では事務職（21.0%）、その他の職種（22.0%）がやや高い。

マスコミから情報を得た受講者構成は、施設別では各種・専修学校が47.6%と極めて高く、他の施設が10%に満たないのに対し特徴的である。この結果、コース別及び現職別の事務職が25%前後と極めて高くなっている。

友人・知人及びその他の経路で情報を得た受講者構成は、施設別では各種・専修学校が各々28.2%、20.2%と極めて高い。その影響を受けてコース別での事務系、現職別での事務職が、友人・知人からの情報として22.2%、24.2と極めて高くなっている。

以上のことから情報の入手経路についての特色を指摘すれば、施設別の影響が

大きく、各種・専修学校は、マスコミ、友人・知人及びその他の経路が高く、工業試験場は会社から、県立訓練校は自治体公報紙からが高くなっている。これらに比べ、総訓・センターは、各々全体平均に近く、P Rにそそぐ姿勢が多様であることを窺わせる。

⑥ 受講の判断（問13）

教育訓練を受講するに当り、誰が受講の判断を行ったかについての全体的な傾向は、表6の通りである。

表6 受講の判断

	人数	比率(%)
会社の指示・勧め	525	38.2
自分の判断（雇用者）	587	42.7
“（自営者）	141	10.3
その他	104	7.6

会社の指示・勧めと自分の判断は各々約4割で大きな差は認められないが、詳細に見ると次のような特色がある。

会社の指示・勧めにより受講した受講者構成は、年令別では、年令が低いほど高く年令が高くなるほど低くなる傾向がある。施設別では工業試験場が極めて高く（69.3%）、コース別では

機械系（62.5%）、指導管理系（68.5%）が極めて高く、溶接系（45.4%）がやや高い。企業別では100人～999人が53.7%～57.8%と極めて高く、現職別では機械加工（67.4%）、機械組立（60.6%）が高い。

雇用者が自分自身の判断で受講した受講者構成は、学歴別では短大卒者がやや高く（51.4%）、施設別では各種・専修学校が極めて高い（59.7%）。コース別では電気系（56.8%）及び事務系（62.5%）が高い。又、現職別では事務職（71.8%）及び管理職（62.5%）が極めて高く、電気職（48.4%）、専門技術職（50.6%）及びその他の職種（51.2%）がやや高くなっている。

自営者自身による判断により受講した構成は、当然ながら就業上の立場別で自営者（71.9%）及び自営手伝い者（42.4%）が極めて高く、これに関連してコース別では建設系（31.3%）及び現職別の建設職（32.1%）が極めて高くなっている。

以上のことから、受講の判断に関する特色はコース別によく顕れているといえる。即ち、機械系、指導管理系は会社の指示、勧めによる判断が高く、電気系、事務系は雇用者自身の判断が高く、建設系は自営者自身の判断が高くなっている。このことは、後述する教育訓練の受講動機、受講評価との関連で考察する必要がある。

あろう。

⑦ 受講の動機（問 14）

教育訓練を受講した動機（理由）の全体的傾向は表 7 の通りである。この設問はマルチ回答を要求しているが、回答者のうち 569 人が重複して回答している。表 7 に見る通り、受講動機の上位 2 位は、基礎的知識・技能を得るため、及び幅広い知識・技能を得るためであり、^注これらは 3 位以下を大きく離し、この両者で

回答された動機の 7 割を越えている。このような期待はいずれの教育訓練にも共通するものであるが、しかしこの期待に応えることは向上訓練が一般に短期訓練であるが故に、向上訓練のコース設定、内容選定に困難さを内蔵しているともいえよう。

受講者構成の特色についてみると、年齢別から現職別のクロス集計でも、全体的傾向に比し大きな差異はない。なお、

表 7 受講の動機

動機の項目	(MA)	
	人数	比率(%)
基礎的知識・技能	531	38.6
職業資格を得たい	369	26.9
いつかは役立つ	304	22.1
幅広い知識・技能	476	34.6
新技術を得たい	126	9.2
趣味を生かしたい	53	3.9
その他	78	5.7

その詳細は後に第 2 節で、視点を変えて分析・詳論したい。

^注 この選択肢に用いた「基礎的知識・技能」と「幅広い知識・技能」との概念は、前者では、「現在の仕事を行うに前提となるようなおおもと」という意であり、後者では、「現在の仕事をより良く行うために習得していた方がベターな「共通基本的」内容」という意である。この両者の内実、関連はカリキュラム論的に常に追求されている永遠の課題である。

⑧ 受講の評価（問 15）

教育訓練を受講したことにより、その受講をどのように評価（意味づけ）しているかについての全体的傾向は表 8 の通りである。

この間には回答者の内の 812 名が重複して回答しているが、その結果、回答者全体の 6 割を越える人が「現在の仕事に役立つ」を挙げ、圧倒的な回答率を示している。次いで「自信の獲得が役立つ」であり 3 割強となっており、この上位 2 位までで、全体の 95% を越える回答となっている。このことは、向上訓練が、教育訓練内容の即効性的機能、及び、受講者への自信の賦与という教育機能の 2 大機能を有していることを示している。そしてそれと同時に、これらが受講者により大きな評価を得ているという点で意義深い結果である。

表8 受講の評価

(MA)		
評価の項目	人数	比率(%)
昇進・昇格に役立つ	62	4.5
転職に役立つ	187	13.6
人間関係が役立つ	85	6.2
現在の仕事に役立つ	849	61.8
部下の教育に役立つ	212	15.4
独立自営に役立つ	104	7.6
自信の獲得が役立つ	472	34.4
事業の拡大に役立つ	79	5.7
その他・特になし	127	9.2

受講の評価については、先の受講の動機と合せ第2節で詳述するが、ここで受講者構成別の特に顕著な特色を指摘すると、次の2点を指摘できる。

即ち、その第1は、全体傾向では4位で1割強の回答率しかなかった「転職に役立つ」については、施設別では各種・専修学校の25.8%が高くなっていること、この事に関連してコース別では電気(19.9%)及び事務(24.6%)がやや高くなっていることである。

その第2は、「自信の獲得が役立つ」については、企業規模別では1000人以上が45.5%と高くなっていることである。このことは、在職者訓練の持つ意味にとって、検討すべき課題が潜んでいるように思われる。

⑨ 再受講の希望 (問19)

受講者が類似の教育訓練を再度受講したいか否かの希望は、表9の通り、9割に近い人達が再受講の意志を表明している。再受講の希望を表明している人を年

表9 再受講の希望

	人数	比率(%)
受講したいと思う	1180	85.9
思わない	56	4.1
わからない	110	8.0

令別に見ると、30～39才が90%を越えてやや高く、学歴別に見ると短大卒・大学卒が90%以上でやや高い。又、現職別では、事務職及び専門技術職が90%でやや高くなっている。

これを施設別に見ると、各種・専修学校で極くわずかに低く、コース別に見ると

電気系(87.4%)、事務系(91.7%)がわずかに高くなっている。これまでの分析では、専修学校の特色はコース別の電気系及び事務系の特色として顕れてきたが、ここで初めて、反対の現象が顕れた。この現象をより明確にするために、各種・専修学校のグループと、県立訓練校、総訓・センターのグループにより、電気系、事務系別の同様な分析を行ったのが表10である。同表の通り、事務系コースでは各種・専修学校と県訓・総訓の間には大差はないが、しかし電気系コースでは著しい差異を認めることができる。このことは訓練校・センターにおける

表 10 施設別・コース別の再受講の希望

コース	電 気 系		事 務 系	
施 設	各種学校	県訓・総訓	各種学校	県訓・総訓
人 数	45	211	79	137
思 う	71.1 %	88.6 %	91.1 %	92.0 %
思 わ ない	15.6	0.9	1.3	2.2
わ か ら ない	11.1	8.1	7.6	4.4

電気系の向上訓練にとって極めて明るいデータであり、この結果を解する仮説を立てれば、少なくとも次の2点を指摘できよう。

即ち、その第1は、向上訓練を受講する際に内在し

ていたその教育訓練への動機（これは期待ともいえる）へのある種の満足感を示していること、その第2は、あまりよく知られていない訓練校の教育訓練が、一度受講した受講者には極めて好意的に受けとられていることを示していることである。その要因を明確に指摘できるデータはないが、このことは次の第2節を分析する際に、記憶にとどめておく必要がある結果である。

⑩ 再受講希望の内容（問20）

次に再受講を希望する場合の、そのコースの内容についての全体的傾向は表11の通りである。

表 11 再受講希望の内容

希望の内容	人数	比率(%)
幅広く基礎的なもの	431	31.4
高度で専門的なもの	494	36.0
最新のもの	220	16.0
そ の 他	64	4.7

幅広く基礎的な内容を希望した受講者構成は、学歴別では中卒者（37.8%）がやや高く、コース別では溶接系（38.5%）及び指導管理系（40.5%）がやや高い。又、現職別では機械組立（44.7%）が高くなっている。

高度で専門的な内容を希望した受講者構成は、学歴別では大学卒者（45.6%）

が高く、施設別では各種・専修学校（60.5%）が極めて高い。コース別では建設系（49.3%）及び事務系（44.4%）が高く、現職別では建設職（45.2%）事務職（45.2%）及び専門技術職（43.3%）がやや高い。

最新の内容を希望した受講者構成は、施設別では工業試験場（28.7%）が高く、コース別では機械系（23.2%）がやや高い。

以上をまとめると、再受講希望の内容に関する特色は、施設別で各種・専修学校受講者が高度専門的内容を、工業試験場受講者が最新の内容を希望していることにあらわれ、その他の区分では大きくあらわれていないといえる。なお、この結果は、次節で受講動機との関連でより詳細に分析してみたい。

第2節 受講動機・受講評価よりみた受講者像

① 受講動機・再受講希望内容より見た施設別受講者像

ここでは、施設別の受講者が、各々受講動機（問14）と再受講希望の内容（問20）との関連をどのように表明しているかを分析することにより、施設別の受講者像をより詳細に浮び上げようとするものである。その問14と問20とのクロス集計の結果が表12である。表12の数値は、施設別人数に対する各々のクロスの回答人数率を示している。

表12 施設別受講動機～再受講希望内容の関連（NA除く）

再受講希望内容	受講動機 (MA) 施設	計	1 基 礎	2 資 格	3 い っ か 役 立 つ	4 幅 広 く	5 新 技 術	6 趣 味	7 そ の 他
計	各種学校	141.9	28.2	45.2	20.2	16.1	1.6	21.0	9.7
	試験場	150.0	46.6	0.5	26.4	47.6	26.0	0.5	2.4
	県立訓練	136.8	37.0	30.0	22.9	34.5	4.7	1.9	5.1
	総計	141.7	39.3	29.9	20.3	34.1	8.3	3.0	6.4
1 広く基礎	各種学校	21.8	3.2	6.5	3.2	0.8	0.8	4.0	3.2
	試験場	34.6	12.0	0.0	9.1	9.1	4.3	0.0	0.0
	県立訓練	45.6	14.3	7.9	8.6	11.1	1.3	1.1	1.3
	総計	49.6	15.6	10.3	6.8	11.5	2.3	0.7	2.3
2 高度な	各種学校	87.9	19.4	31.5	11.3	12.1	0.8	9.7	3.2
	試験場	49.0	14.4	0.0	6.3	19.2	7.7	0.0	1.4
	県立訓練	44.5	10.9	13.2	6.4	10.7	1.7	0.2	1.1
	総計	48.0	13.2	10.1	5.6	13.2	2.9	1.0	1.9
3 最新の	各種学校	6.5	0.8	1.6	0.8	0.8	0.0	2.4	0.0
	試験場	44.7	12.0	0.0	4.8	14.4	12.0	0.5	1.0
	県立訓練	21.4	5.6	4.3	3.0	6.4	0.9	0.2	1.1
	総計	22.1	5.0	4.3	3.5	5.9	2.1	0.7	0.5
4 その他	各種学校	4.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	1.6
	試験場	4.8	1.9	0.0	0.5	1.9	0.5	0.0	0.0
	県立訓練	6.8	1.3	1.7	1.5	1.7	0.2	0.2	0.2
	総計	7.1	0.7	2.3	1.4	1.6	0.2	0.2	0.9

表12により、施設別に問14×問20の回答率が3位までの選択肢を整理すると表13のようになる。表13に現れた選択肢を、逆に設問ごとに再整理すると表14になる。この表14はやや抽象的であるが、各施設毎の受講者像をあらわしているものといえよう。即ち、各種・専修学校受講者は受講動機として資格取得をはじめ多様な期待を持って受講しているが、その再受講希望内容は高度な内容への希望が極めて強いことが窺える。工業試験場の受講者は受講動機では幅広い内容の受講を望んで受講しているが、その再受講希望内容は高度で最新の内容を希望しているといえる。県立訓練校及び総訓センターの間には大きな相違はなく、その受講動機は基礎、再受講希望内容も幅広い基礎を期待しているといえる。

表13 施設別クロス回答上位3位迄の選択肢

施設 \ 順位	1 位	2 位	3 位
各種・専修学校	資格×高度	基礎×高度	幅広×高度
工業試験場	幅広×高度	基礎×高度 or 幅広×最新	
県立訓練校	基礎×幅広基礎	資格×高度	幅広×幅広基礎
総訓・センター	基礎×幅広基礎	基礎×高度 or 幅広×高度	

表14 施設別上位3位迄の選択肢

施設 \ 設問	受講動機	再受講希望内容
各種・専修学校	資格、基礎、幅広	高度、高度、高度
工業試験場	幅広、幅広、基礎	高度、高度、最新
県立訓練校	基礎、資格、幅広	幅広基礎、高度、幅広基礎
総訓・センター	基礎、基礎、幅広	幅広基礎、高度、高度

以上のことから受講動機と再受講希望内容との関連における特色は、各種・専修学校及び工業試験場の受講者では、如何なる要因によるかは不明であるが、その両者の間にやや乖離があるように考えられる。これに対し、県立訓練校及び総訓・センターの受講者では、両者がより関連しているといえよう。

それでは、この訓練校の受講者について、コース別に同様の分析を次に試みよう。

② 受講動機・再受講希望内容よりみたコース別受講者像

県立訓練校及び総訓・センターの受講者のみを対象に前項と同様に受講動機と再受講希望内容の関連を受講コース別に集計したのが表15である。表15より、

表15 コース別 受講動機～再受講希望内容の関連（県訓・総訓のみ）

（NA除く）

再受講希望内容	受講動機 (MA) コース	計	1 基 礎	2 資 格	3 いつ か役 立つ	4 幅 広 く	5 新 技 術	6 趣 味	7 そ の 他
計	機械系	143.9	50.6	21.8	21.8	35.1	8.5	0.7	5.5
	電気系	139.3	26.5	46.9	22.7	28.0	3.8	4.7	6.2
	溶接系	135.4	37.9	35.4	23.0	22.4	6.2	3.7	4.3
	建設系	140.0	29.3	41.3	8.0	42.7	10.7	4.0	4.0
	建務系	138.7	42.3	19.7	26.3	37.2	5.1	1.5	6.6
	管理系	135.7	38.4	7.1	28.6	46.4	5.4	0.0	9.8
1 広く 基礎	機械系	48.7	20.3	6.6	6.6	11.4	2.2	0.0	1.5
	電気系	48.8	10.0	15.6	7.6	12.3	1.9	0.9	0.5
	溶接系	52.8	14.9	12.4	8.1	9.9	1.9	1.9	3.1
	建設系	28.7	7.3	8.0	2.7	6.0	2.0	1.3	1.3
	建務系	53.3	19.0	5.8	13.1	11.7	0.7	1.5	1.5
	管理系	55.4	17.9	4.5	8.9	17.9	1.8	0.0	4.5
2 高度な	機械系	45.8	15.1	7.4	7.0	10.7	3.3	0.4	1.8
	電気系	42.7	9.0	15.2	6.6	7.6	0.0	1.4	2.8
	溶接系	46.6	11.8	15.5	7.5	6.8	3.1	1.2	0.0
	建設系	64.7	11.3	20.0	3.3	23.3	5.3	0.7	0.7
	建務系	44.5	13.1	8.0	3.6	16.1	2.2	0.0	1.5
	管理系	33.0	11.6	1.8	6.3	11.6	0.0	0.0	1.8
3 最新の	機械系	25.8	7.4	5.2	3.7	7.0	1.1	0.4	1.1
	電気系	22.3	3.8	5.7	4.3	4.7	1.4	1.4	0.9
	溶接系	14.9	4.3	3.1	3.1	2.5	0.6	0.6	0.6
	建設系	24.7	4.7	7.3	1.3	8.7	2.7	0.0	0.0
	建務系	15.3	3.6	1.5	2.9	4.4	1.5	0.0	1.5
	管理系	25.0	7.1	0.9	3.6	10.7	2.7	0.0	0.0
4 その他	機械系	5.2	0.4	0.7	1.8	1.5	0.4	0.0	0.4
	電気系	13.3	0.5	6.2	2.4	2.4	0.5	0.5	0.9
	溶接系	3.1	1.2	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6
	建設系	4.0	0.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7
	建務系	10.9	3.6	1.5	2.2	3.6	0.0	0.0	0.0
	管理系	4.5	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.9

コース毎に回答率が3位までの選択肢を整理したのが表16であり、この表16より設問毎に再整理したものが表17である。

表16 コース別クロス回答上位3位迄の選択肢

コース \ 順位	1 位	2 位	3 位
機 械 系	基礎×広く基礎	基礎×高度	幅広く×広く基礎
電 気 系	資格×広く基礎	資格×高度	幅広く×広く基礎
溶 接 系	資格×高度	基礎×広く基礎	資格×広く基礎
建 設 系	幅広く×高度	資格×高度	基礎×高度
事 務 系	基礎×広く基礎	幅広く×高度	基礎×高度 いつか×広く基礎
管 理 系	幅広く×広く基礎 or 基礎×広く基礎		基礎×高度 幅広く×高度

表17 コース別上位3位迄の選択肢

コース \ 設問	受 講 動 機	再受講希望内容
機 械 系	基礎、基礎、幅広く	広く基礎、高度、広く基礎
電 気 系	資格、資格、幅広く	広く基礎、高度、広く基礎
溶 接 系	資格、基礎、資格	高度、広く基礎、広く基礎
建 設 系	幅広く、資格、基礎	高度、高度、高度
事 務 系	基礎、幅広く、基礎いつか	広く基礎、高度、高度 広く基礎
管 理 系	幅広く、基礎、基礎幅広く	広く基礎、広く基礎、高度

以上の表より、先ず訓練校における向上訓練の受講者像としては、受講動機及び再受講希望内容の両者ともに、新技術・新知識に対する期待はあまり大きくなく、資格を含め、基礎的内容、より幅広い内容への期待が強くあらわれているといえる。このような全体的傾向をコース別に見ると、表17から機械と事務系コース、電気と溶接系コース、建設系コース、指導管理系コースの4グループに分けることができるように思う。これらのグループの受講者像は次の如く解することができる。

即ち、機械・事務系は受講動機では基礎にウェイトが高く、再受講希望内容では幅広く基礎を望んでいるといえる。次に電気・溶接系では、受講動機では資格、再受講希望では広く基礎を望んでいるといえよう。建設系は受講動機では幅広く及び資格、再受講希望では高度な内容を期待しており、そして指導管理系は受講動機では幅広い内容を希望し、再受講希望も幅広い基礎的内容を期待していると

表 18 施設別 受講動機－受講評価の関連

(NA除く)

受選 講択 動機 (MA)	受講評価 選択肢 (MA)	計	1 昇信 昇格	2 転職	3 人間 関係	4 現在の 仕事	5 部下の 指導	6 独立 自営	7 自信の 獲得	8 事業の 拡大	9 その他
計	全 体	2 3 8.1	6.9	2 0.5	9.9	9 0.6	2 3.4	1 1.5	5 3.1	9.1	1 2.8
	各種・専修学校	2 4 3.5	1.6	3 8.7	2 4.2	5 6.5	0.8	2 3.4	6 6.1	3.2	2 8.2
	工業試験場	2 5 9.3	9.6	1 2.9	2 2.0	1 0 9.6	2 2.0	3.8	5 9.8	5.7	1 3.4
	県立訓練校	2 2 5.2	6.5	1 7.8	5.6	8 6.9	1 8.9	1 5.5	4 7.5	1 4.2	1 1.6
	総訓・センター	2 4 0.4	7.5	2 1.1	5.9	9 4.4	3 2.6	8.5	5 2.4	7.5	9.6
1 基礎的	全 体	6 3.8	1.7	2.6	1.7	3 0.9	6.6	1.8	1 4.4	2.0	2.0
	各種・専修学校	4 9.2	0.0	4.8	1.6	1 9.4	0.8	6.5	1 1.3	2.4	2.4
	工業試験場	7 9.4	1.9	2.4	5.7	3 7.3	5.7	0.5	2 1.5	1.4	2.9
	県立訓練校	6 0.2	1.5	1.3	1.3	3 0.5	6.7	2.6	1 1.8	3.0	1.5
	総訓・センター	6 4.1	2.3	3.1	0.7	3 1.4	8.2	0.7	1 4.6	1.2	1.7
2 資格	全 体	4 4.8	1.9	4.8	1.5	1 4.8	3.3	4.2	9.5	2.8	1.8
	各種・専修学校	7 3.4	0.8	1 2.1	5.6	1 6.1	0.0	9.7	1 9.4	0.8	8.9
	工業試験場	1.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	県立訓練校	5 0.8	2.2	4.7	1.5	1 7.2	3.0	6.0	9.7	6.0	0.4
	総訓・センター	4 9.8	2.4	5.1	1.2	1 7.9	5.6	3.1	1 0.6	1.7	2.1
3 役立つ かつ	全 体	3 7.7	0.9	6.0	2.6	1 0.3	2.6	2.2	8.7	0.9	3.3
	各種・専修学校	3 5.5	0.0	4.0	6.5	5.6	0.0	2.4	1 2.1	0.0	4.0
	工業試験場	4 5.5	1.9	5.7	6.2	1 4.8	2.4	1.0	8.6	0.5	4.3
	県立訓練校	3 7.6	0.9	6.0	1.7	1 0.1	2.4	2.8	9.2	1.3	3.2
	総訓・センター	3 5.4	0.7	6.6	1.2	9.9	3.5	2.1	7.5	0.9	2.8
4 幅広く	全 体	5 9.4	1.4	3.1	2.3	2 5.5	7.6	1.7	1 3.5	2.3	1.8
	各種・専修学校	2 9.0	0.8	5.6	4.0	9.7	0.0	2.4	5.6	0.0	0.8
	工業試験場	8 1.8	2.4	1.4	7.2	3 8.8	7.2	1.4	1 8.7	2.4	2.4
	県立訓練校	5 6.3	1.1	3.4	0.6	2 4.1	5.2	2.2	1 3.8	3.0	3.0
	総訓・センター	5 9.9	1.4	2.6	1.6	2 5.4	1 1.3	1.4	1 3.2	2.3	0.5
5 新技術	全 体	1 6.2	0.7	0.8	0.4	6.4	2.4	0.4	3.3	0.9	0.9
	各種・専修学校	2.4	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
	工業試験場	4 6.4	2.9	2.9	1.9	1 7.7	6.7	1.0	9.6	1.4	2.4
	県立訓練校	8.2	0.4	0.2	0.0	3.0	1.1	0.4	1.1	0.4	1.5
	総訓・センター	1 4.8	0.2	0.5	0.3	6.3	2.4	0.2	3.3	1.4	0.2
6 趣味	全 体	6.8	0.1	1.7	0.4	0.7	0.1	0.6	2.0	0.0	1.2
	各種・専修学校	3 6.3	0.0	7.3	2.4	3.2	0.0	0.8	1 2.9	0.0	9.7
	工業試験場	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	県立訓練校	3.4	0.0	0.9	0.0	0.4	0.0	0.6	1.1	0.0	0.4
	総訓・センター	5.2	0.2	1.7	0.5	0.5	0.2	0.7	1.0	0.0	0.3
7 その他	全 体	9.4	0.3	1.4	0.8	2.0	0.7	0.6	1.7	0.1	1.7
	各種・専修学校	1 7.7	0.0	4.0	4.0	1.6	0.0	1.6	4.0	0.0	2.4
	工業試験場	3.8	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	1.4	0.0	1.0
	県立訓練校	8.0	0.4	1.3	0.4	1.5	0.6	0.9	0.9	0.4	1.5
	総訓・センター	1 0.8	0.3	1.4	0.3	3.0	1.2	0.3	2.1	0.0	1.9

いえる。

以上のように、訓練校の受講者は4類型になるが、この中で再受講希望内容に「高度」が強くあらわれている建設系が特に特異性を呈しているといえる。それは建設系の受講者の属性と大きく関係していることが予想される

③ 受講動機・受講評価より見た施設別受講者像

それでは、各施設別の受講者が、受講動機(問14)と受講評価(問15)との関連をどのように表明しているかを明らかにし、施設別の受講者意識を分析してみよう。その問14と問15のクロス集計の結果が表18である。表18の数値も前項と同様、施設別人数に対する各々のクロスの回答人数率を示している。表18に表れたクロス回答で、上位3位迄の選択肢を施設別に抽出したのが表19であり、この表19より設問毎に選択肢を再整理したのが表20である。

以上の表より、施設毎に受講者の受講動機－受講評価に関する受講者像を捉えてみると、次のようになろう。まず、各種・専修学校の受講者はその受講動機が資格取得にあり、その受講後の評価は資格取得による自信の獲得になったとする意識にあるといえる。次に工業試験場の受講者は、幅広い基礎が現在の仕事に役

表19 施設別 クロス回答上位3位迄の選択肢

施設 \ 順位	1 位	2 位	3 位
各種・専門学校	資格×自信	or 基礎×現在	資格×現在
工業試験場	幅広い×現在	基礎×現在	基礎×自信
県立訓練校	基礎×現在	幅広い×現在	資格×現在
総訓・センター	基礎×現在	幅広い×現在	資格×現在

表20 施設別 上位3位迄の選択肢

施設 \ 設問	受講動機	受講評価
各種・専修学校	資格、基礎、資格	自信、現在、現在
工業試験場	幅広い、基礎、基礎	現在、現在、自信
県立訓練校	基礎、幅広い、資格	現在、現在、現在
総訓・センター	基礎、幅広い、資格	現在、現在、現在

表 21 コース別 受講動機－受講評価の関連（県立訓、総訓・センターのみ）

（NA除く）

受講 動機	受講評価 選択肢 (MA)	計	1 昇進 昇格	2 転職	3 人間 関係	4 現在の 仕 事	5 部下の 指 導	6 独立 自営	7 自信の 獲 得	8 事業の 拡 大	9 その他
計	機 系	2 4 9.1	8.1	1 5.9	6.3	10 3.3	3 1.0	4.1	6 2.7	5.5	1 2.2
	電 系	2 2 9.4	7.1	3 5.1	3.3	7 6.8	1 4.7	1 7.1	4 9.3	1 4.7	9.5
	溶 系	2 1 9.3	1 0.6	1 9.9	5.6	9 6.3	1 4.9	1 1.8	4 0.4	6.2	1 1.8
	建 系	2 4 0.0	6.7	6.0	1 1.3	8 7.3	2 2.7	2 1.3	4 8.0	3 0.7	6.0
	事 系	2 2 4.1	4.4	3 3.6	7.3	7 5.2	8.0	1 4.6	5 7.7	5.1	1 8.2
	管 系	2 3 0.6	2.7	3.6	0.0	10 3.6	8 2.0	2.7	2 8.8	0.0	6.3
基 礎 的	機 系	8 3.0	2.6	3.7	1.5	3 9.5	1 0.0	0.0	2 2.1	0.4	3.3
	電 系	4 3.1	1.4	3.8	0.5	2 0.4	1.9	2.4	7.6	3.8	0.9
	溶 系	6 2.7	3.1	2.5	0.0	3 2.9	5.0	1.2	1 3.0	2.5	2.5
	建 系	5 0.7	2.0	0.7	2.7	2 3.3	4.0	2.7	1 0.0	4.0	1.3
	事 系	6 5.0	0.7	2.2	0.7	3 7.2	5.8	2.9	1 2.4	1.5	1.5
	管 系	6 3.1	0.9	0.0	0.0	2 9.7	2 2.5	0.9	9.0	0.0	0.0
資 格	機 系	3 8.4	1.8	2.6	0.7	1 4.4	6.3	1.5	8.9	0.7	1.5
	電 系	7 5.8	3.8	1 0.9	0.9	2 4.6	5.2	6.6	1 4.7	6.2	2.8
	溶 系	5 7.1	3.1	3.1	3.1	2 3.6	5.0	5.0	1 0.6	1.9	1.9
	建 系	6 9.3	2.7	2.7	1.3	2 4.0	3.3	1 0.7	1 2.0	1 2.7	0.0
	事 系	3 4.3	1.5	8.0	2.2	7.3	0.0	2.9	1 0.9	0.7	0.7
	管 系	1 3.5	0.0	0.9	0.0	7.2	4.5	0.0	0.9	0.0	0.0
い っ か 役 立 つ	機 系	3 6.2	0.7	4.4	1.5	1 2.5	1.8	0.4	1 0.0	1.5	3.3
	電 系	3 8.9	0.9	1 1.4	0.5	7.6	2.4	4.7	8.5	0.9	1.4
	溶 系	3 7.3	1.2	6.8	1.2	1 3.0	0.0	3.7	5.6	0.6	5.0
	建 系	1 5.3	0.7	0.7	2.0	2.7	0.7	1.3	4.0	1.3	2.0
	事 系	4 3.8	0.0	1 0.9	3.6	5.8	0.7	2.9	1 4.6	1.5	3.6
	管 系	4 9.5	0.9	2.7	0.0	1 8.9	1 7.1	1.8	5.4	0.0	2.7
幅 広 く	機 系	6 5.7	2.2	3.3	2.2	2 6.5	1 0.0	1.5	1 6.2	1.8	1.5
	電 系	4 7.9	0.5	4.3	0.5	1 9.0	3.8	1.9	1 3.7	2.4	1.4
	溶 系	3 3.5	1.2	3.1	0.0	1 8.0	3.7	0.6	5.6	0.6	0.6
	建 系	7 2.0	0.7	0.7	3.3	2 9.3	8.7	4.0	1 4.7	1 0.0	0.7
	事 系	5 9.9	2.2	6.6	0.0	2 2.6	1.5	2.2	1 6.8	0.7	7.3
	管 系	7 8.4	0.0	0.0	0.0	3 6.9	2 9.7	0.0	1 1.7	0.0	0.0
新 技 術	機 系	1 5.1	0.7	0.4	0.4	6.6	2.2	0.4	3.0	1.1	0.4
	電 系	5.7	0.0	0.0	0.0	4.8	0.5	0.0	0.9	0.9	0.5
	溶 系	1 1.8	0.0	1.2	0.0	6.2	0.6	0.0	3.1	0.6	0.0
	建 系	1 9.3	0.7	0.7	0.7	5.3	4.7	0.7	4.0	2.7	0.0
	事 系	7.3	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.7	0.7	0.0	4.4
	管 系	1 0.8	0.0	0.0	0.0	5.4	3.6	0.0	1.8	0.0	0.0
趣 味	機 系	1.1	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
	電 系	8.1	0.0	2.8	0.9	0.5	0.5	0.9	1.9	0.0	0.5
	溶 系	6.8	0.6	2.5	0.6	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	0.6
	建 系	7.3	0.0	0.7	0.0	2.0	0.0	1.3	2.0	0.0	1.3
	事 系	2.9	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0
	管 系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	機 系	9.6	0.0	1.1	0.0	3.0	0.7	0.4	2.2	0.0	2.2
	電 系	9.5	0.5	1.9	0.0	1.9	0.5	0.5	1.9	0.5	1.9
	溶 系	7.5	1.2	0.6	0.6	2.5	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2
	建 系	6.0	0.0	0.0	1.3	0.7	1.3	0.7	1.3	0.0	0.7
	事 系	1 0.9	0.0	4.4	0.7	0.7	0.0	2.2	1.5	0.7	0.7
	管 系	1 5.3	0.9	0.0	0.0	5.4	4.5	0.0	0.0	0.0	3.6

立ったとする意識といえる。これらに対し訓練校の受講者は、県立訓練校、総訓・センターの間に差はなく、基礎的だが、やや幅広く、資格にも期待をもって受講したことが、そのまま現在の仕事に役立っていると評価しているようである。それでは、次に訓練校の受講者に限定して、更に詳細に分析してみよう。

④ 受講動機・受講評価より見たコース別受講者像

県立訓練校及び総訓・センターの受講者のみを対象として、前項と同様にコース別に受講動機と受講評価のクロス集計結果を示すと、それは表21の通りである。表21より、上位3位迄の選択肢を整理したのが表22、表23である。これらの表より、訓練校の受講者像をコース別にみると、前述の②項と同様に、機械と事務系コース、電気と溶接系コース、建設系コース及び指導管理系コースの4グループに分けることが可能である。即ち、機械と事務系の受講者の受講動機は基礎を期待して受講し、受講評価では現在の仕事に役立つと同時に、自信獲得に役立つとしている。次に電気・溶接系の受講者は、資格取得を先ず動機に掲げ、受講評価では現在の仕事に役立つとしている。建設系の受講者は、幅広く学ぶことを中心として資格の取得を期待し、それは現在の仕事に役立ったと高く評価している。指導管理系の受講者は幅広く学ぶことを期待し、それは部下の指導に役立つとともに現在の仕事に役立ったとしている。

このように、前項で分析した訓練校の受講者像よりもやや具体的にコース別の受講者像をイメージできた。それでは、次に前述の再受講希望の内容と併せて、受講者像を再吟味してみよう。

⑤ 受講動機・受講評価・再受講希望内容よりみたコース別受講者像

最後に、今まで述べてきた結果から公共訓練校における向上訓練受講者像を検討してみたい。

先ず、全体的な受講者像としては次のようにいえる。受講動機としては極めて「基礎的内容」を学ぶことを期待し、その受講評価としては「現在の仕事に役立っている」とし、更に再度受講する場合の希望する受講内容は「幅広い基礎的内容」を期待しているといえる。このことから、訓練校の向上訓練受講者は「基礎動機・現在評価・幅広基礎期待」型の受講者といえる。それではそれをコース別に見るとどうであろうか。6コースを4グループに分けて見よう。

機械と事務系コースの受講者は、受講動機では「基礎的内容」を学ぶことを目

表 22 コース別 クロス回答上位 3 位迄の選択肢

順位 コース	1 位	2 位	3 位
機 械 系	基礎 × 現在	幅広く × 現在	基礎 × 自信
電 気 系	資格 × 現在	基礎 × 現在	幅広く × 現在
溶 接 系	基礎 × 現在	資格 × 現在	幅広く × 現在
建 設 系	幅広く × 現在	資格 × 現在	基礎 × 現在
事 務 系	基礎 × 現在	幅広く × 現在	幅広く × 自信
管 理 系	幅広く × 現在	幅広く × 部下 or 基礎 × 現在	

表 23 コース別上位 3 位迄の選択肢

設問 コース	受 講 動 機	受 講 評 価
機 械 系	基礎、幅広く、基礎	現在、現在、自信
電 気 系	資格、基礎、幅広く	現在、現在、現在
溶 接 系	基礎、資格、幅広く	現在、現在、現在
建 設 系	幅広く、資格、基礎	現在、現在、現在
事 務 系	基礎、幅広く、幅広く	現在、現在、自信
管 理 系	幅広く、幅広く、基礎	現在、部下、現在

的に受講し、その評価では「現在の仕事に役立ち、自信の獲得にもなる」とし、再受講希望の内容では「幅広く、基礎を学ぶ」ことを希望しているといえる。このことから、機械と事務系コースの受講者は「基礎動機・現在（＋自信）評価・幅広基礎期待」型といえる。同様に電気と溶接系コースの受講者は、「資格動機・現在評価・幅広基礎期待」型、建設系コースの受講者は「幅広動機・現在評価・高度期待」型、指導管理系コースの受講者は「幅広動機・現在（＋部下）評価・幅広基礎期待」型といえよう。

以上のような公共訓練校における向上訓練受講者の受講動機、受講評価及び再受講の希望内容の表明結果より調査の範囲内での限定ではあるが、少なくとも次の 3 点を指摘することができる。即ち、その第 1 点は、公共訓練校が行う向上訓練の役割を受講者が極めて好意的に評価していると解することができること、第 2 点は、そのことから公共向上訓練が社会的に十分機能を果しているとも解することができること、第 3 点は、これらのことから公共向上訓練がこれからも社会及

び受講者に対し充分期待に応え得る可能性を有していると解することができることである。

以上のような、本調査より得られた知見が、今後の公共向上訓練の実施にとって、多少とも意味があれば、幸いである。